

外為マンスレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2017/04/05

政治リスクと地政学リスクに警戒

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円	➡	市場センチメントがカギに 予想レンジ: 81.500 ~ 87.500 円	2 - 3
NZドル/円	➡	買い材料に乏しい 予想レンジ: 73.800 ~ 79.700 円	4 - 5
ランド/円	➡	格下げ懸念が重石 予想レンジ: 7.600 ~ 8.500 円	6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



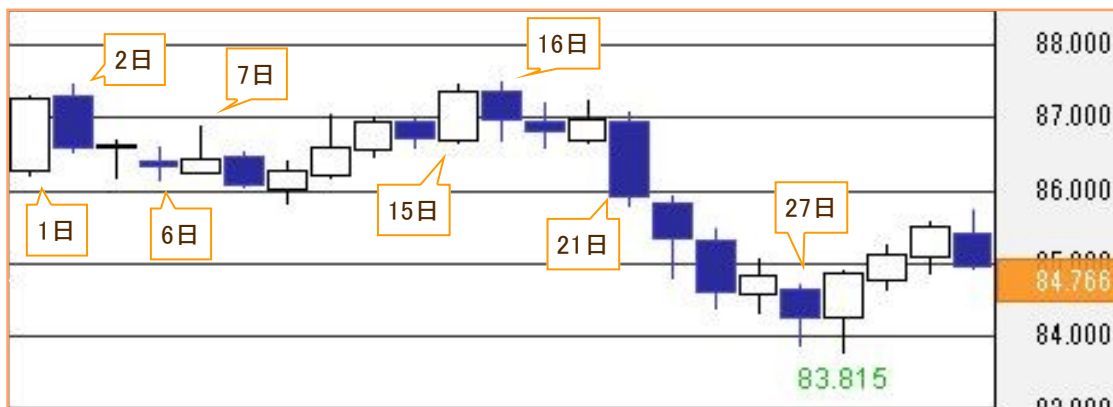
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 3月の推移

AUD/JPY

3月の豪ドル/円は、83.815～87.493円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.5%の下落(豪ドル安・円高)となった。前半は、豪準備銀行(RBA)の次の一手は利上げになるとの観測などから堅調に推移したものの、2日、15日、16日と、3度に渡って87.50円の壁に上値を抑えられた。すると後半は、世界的に株価が調整した事や、原油などの資源価格が軟調に推移した事からリスク回避の動きが強まり、28日には昨年12月29日以来の安値となる83.815円まで下落した。その後、四半期末にかけて買い戻しの動きも見られたが、月間の下げ幅の半値戻し(85.654円)前後では頭を押さえられた。



四本値

OPEN	86.281
HIGH	87.493
LOW	83.815
CLOSE	84.996

1日	豪10-12月期国内総生産(GDP)が前期比+1.1%、前年比+2.4%となり、予想(+0.8%、+2.0%)を上回ると豪ドル買いが強まった。また、中国2月財新/製造業PMIが51.7と予想(50.8)を上回った事も豪ドル高を支援した。
2日	豪1月貿易収支が13.02億豪ドルの黒字と予想(38.00億豪ドルの黒字)を下回った事を受けて豪ドル売りが優勢となった。その後も、米利上げ観測が高まる中、米国株やNY原油先物が下落したため、豪ドルの軟調推移が続いた。
6日	北朝鮮が4発の弾道ミサイルを発射し、うち3発が日本の排他的経済水域(EEZ)に落下した事を受けてリスク回避の円買いが優勢となった。中国が5日に開幕した第12期全国人民代表大会(全人代)で今年の経済成長率目標を6.5%前後に引き下げた事なども円買い材料になった模様。
7日	RBA理事会は政策金利の現状維持(1.50%)を決定。声明文で「政策スタンスを変更しない事が経済の持続可能な成長と、時間をかけてインフレ目標を達成することに一致すると判断」「インフレ率は2017年に2%を上回ると予想」「人件費の伸びが抑えられているため、基礎的なインフレはしばらくの間低水準に留まるだろう」「労働市場の指標は引き続きまちまち」などとした。発表直後に一時豪ドルが買われたが、前月とほぼ同じ内容の声明だった事もあって上昇は続かなかった。
15日	米連邦公開市場委員会(FOMC)が0.25%の利上げを決めた後の会見でイエレン米連邦準備制度理事会(FRB)議長が「2%のインフレ目標は上限ではない」などとハト派的な見解を示した事から米国株やNY原油が上昇すると豪ドル買いが優勢となった。
16日	豪2月雇用統計は、失業率が5.9%に悪化(前回5.7%、予想5.7%)した上に、就業者数は0.64万人減と予想(1.60万人増)に反して減少した。
21日	米議会でオバマケア代替法案の審議が難航したため、トランプ大統領が掲げる減税やインフラ投資の実施に不透明感が広がる中、NYダウ平均が250ドル近く下落するなど、欧米市場で株安が進行。NY原油も47ドル台前半まで下落するリスク回避の展開となり、豪ドル/円に下落圧力がかかった。
27日	前週24日にトランプ米大統領が、オバマケア代替法案の撤回を余儀なくされた事を受けて、大型減税など景気刺激策の実施に対する不透明感が広がる中、日経平均株価が19000円を割り込んで下落。その後も、NY原油が再び47ドル台前半に下落するなど、リスク回避の動きが強まる中で豪ドル売り・円買いが活発化すると84円台を割り込んだ。

AUD/JPY

日経平均

OPEN	19226.94
HIGH	19668.01
LOW	18909.26
CLOSE	18909.26

NYダウ平均

OPEN	20957.29
HIGH	21169.11
LOW	20412.80
CLOSE	20663.22

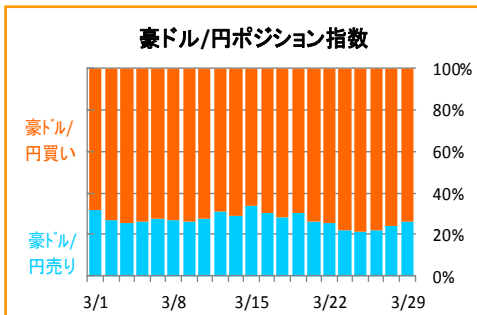
上海総合指数

OPEN	3240.073
HIGH	3283.239
LOW	3193.156
CLOSE	3222.514

豪10年債利回

OPEN	2.769%
HIGH	2.980%
LOW	2.681%
CLOSE	2.701%

3月のポジション動向



4月の豪州・中国の注目材料

- ・3月中国/財新製造業PMI(1日)
- ・2月豪小売売上高(3日)
- ・2月豪住宅建設許可件数(3日)
- ・2月豪貿易収支(4日)
- ・RBA政策金利発表(4日)
- ・米中首脳会談(6-7日)
- ・3月中国消費者物価指数(12日)
- ・豪3月雇用統計(13日)
- ・3月中国貿易収支(13日)
- ・3月中国鉱工業生産(17日)
- ・1-3月期中国GDP(17日)
- ・RBA議事録(18日)
- ・1-3月豪消費者物価(26日)
- ・1-3月豪生産者物価(28日)

4月の見通し

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

豪金利デリバティブ市場が示す年内の政策金利据え置き確率は88%(5日時点)となっている。市場は、豪準備銀行(RBA)が年内に利上げもしくは利下げを行う可能性は極めて低いと見ている事になる。今月4日の理事会後に発表した声明からも「次の一手」に関する手がかりは得られなかった。こうした中、豪ドル/円相場は金融政策を手がかりとした展開にはなりにくく、市場センチメント(リスク許容度)に左右される展開となりそうだ。足元では、米政権の保護主義傾斜への懸念や、北朝鮮の核実験(とそれに対する制裁措置のエスカレート)への懸念がリスク・オフムードを醸成しており、この流れが続けば豪ドル/円に下落圧力がかかる公算が大きい。この場合は、約5カ月ぶりに82円台割れを示現する可能性もあろう。米中首脳会談(6-7日)や日米経済対話(18日)でそうした流れを断ち切れるか注目されるところだが、これらを経て市場のムードが好転すれば、3月に届かなかった87.50円の突破を再び試す展開もあり得るだろう。(神田)

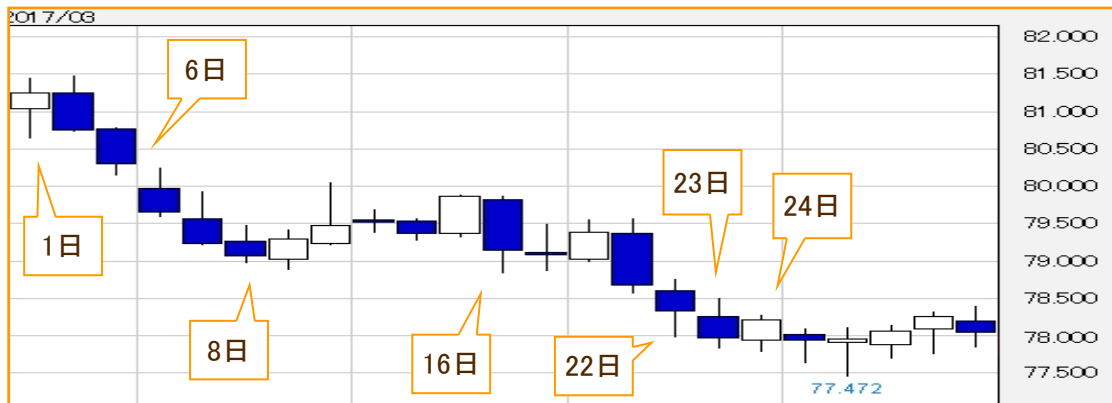
(予想レンジ: 81.500-87.500円)

NZドル/円 3月の推移

NZD/JPY

3月のNZドル/円相場は77.472～81.476円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約3.7%の下落(NZドル安・円高)となった。

2月のNZ準備銀行(RBNZ)の金融政策決定の場において、自国通貨高をけん制したことを受けNZドルが弱含んだ流れを引き継ぎ、軟調に推移。NZ10-12月期国内総生産(GDP)が予想を下回る伸びに留まった事や、トランプ米大統領の政策実行力に対する不安が広がってNYダウ平均が下落した事も重石となり、28日に2016年11月以来の安値となる77.472円まで下落した。



四本値

OPEN	81.051
HIGH	81.476
LOW	77.472
CLOSE	78.055

1日	ウィーラーRBNZ総裁が「一つのリスクはNZドルが予想より高止まりすること」とするも、「将来の金利の動きを巡るリスクは均衡が取れている」などとした事に反応してNZドル/円は一時81.40円台まで上昇した。
6日	北朝鮮が4発の弾道ミサイルを発射し、うち3発が日本の排他的経済水域(EEZ)に落下したとのニュースが伝わるとリスク回避の円買いが優勢となった。中国が5日に開幕した第12期全国人民代表大会(全人代)で今年の経済成長率目標を6.5%前後に引き下げた事なども円買い材料になった模様である。
8日	NZ乳業大手フォンテラの乳製品入札で、GDT指数は前回比-6.3%(前回:-3.2%)であった。
16日	NZ10-12月期GDPは前期比+0.4%、前年比+2.7%と、それぞれ予想(+0.7%、+3.2%)を下回った。これを受け、NZドル売りが強まった。
22日	フォンテラの乳製品入札で、GDT指数は前回比+1.7%と3回ぶりにプラスとなり、NZドルは小幅に値を上げるも一時的。その後はトランプ米大統領の大規模減税の実施が遅れるとの懸念が強まり、NYダウ平均が下げ幅を拡大した事から、急落した。
23日	RBNZは政策金利の据え置き(1.75%)を決定。これは事前予想通りであった。また、声明では「為替レートは2月から4%下落し、この動きは歓迎」とするも、「均衡した成長を達成するためにはNZドルのさらなる下落が必要」「金融政策はかなりの期間緩和的であり続けるだろう」などの文言は残っており、目新しさに乏しい内容であった。
24日	NZ2月貿易収支は0.18億NZドルの赤字(予想:1.8億NZドルの黒字)であった。トランプ米大統領がオバマケア修正法案の採択中止を指示した事を受け、トランプ米大統領の軸足が税制改革に移るとの期待からNYダウ平均が下げ幅を縮小するとNZドル/円は値を上げた。

NZD/JPY

日経平均

OPEN	19226.94
HIGH	19668.01
LOW	18909.26
CLOSE	18909.26

NYダウ平均

OPEN	20957.29
HIGH	21169.11
LOW	20412.80
CLOSE	20663.22

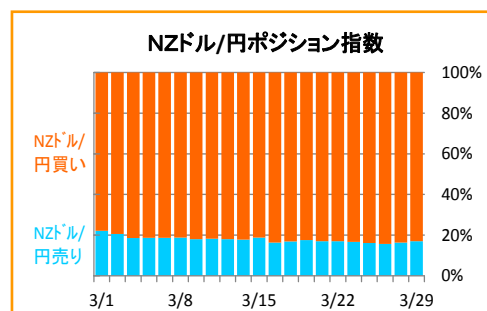
上海総合指数

OPEN	3240.073
HIGH	3283.239
LOW	3193.156
CLOSE	3222.514

NZ10年債利回

OPEN	3.239%
HIGH	3.402%
LOW	3.170%
CLOSE	3.191%

3月のポジション動向



4月のNZの注目材料

- ・NZフォンテラ入札(4日、18日)
- ・3月NZ企業景況感(PMI、13日)
- ・1-3月期NZ消費者物価指数(20日)
- ・3月NZ貿易収支(28日)
- ・3月NZ住宅建設許可(28日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

4月の見通し

NZドル/円は、2016年12月26日安値(80.448円)を底、2017年1月27日高値(83.791円)を天井とするレンジを形成していたが、3月3日にレンジを下抜けると、28日に77.472円まで下落。4月4日に約5カ月ぶりに200日移動平均線を下抜けて終えるなど、下落基調が続いている。材料面でもNZの利上げ観測が高まらない事や、RBNZがNZドル安を志向していることなどから、NZドルを買う理由が見当たらない。こうした見方は、NZドル/円が反転上昇するには時間が掛かる見込みである。NZドル/円は週足の一目均衡表の雲の上限(今月は76.185円)を割り込むと、雲の下限(同、73.80円前後)まで下値余地が拡大するだろう。(川畑)

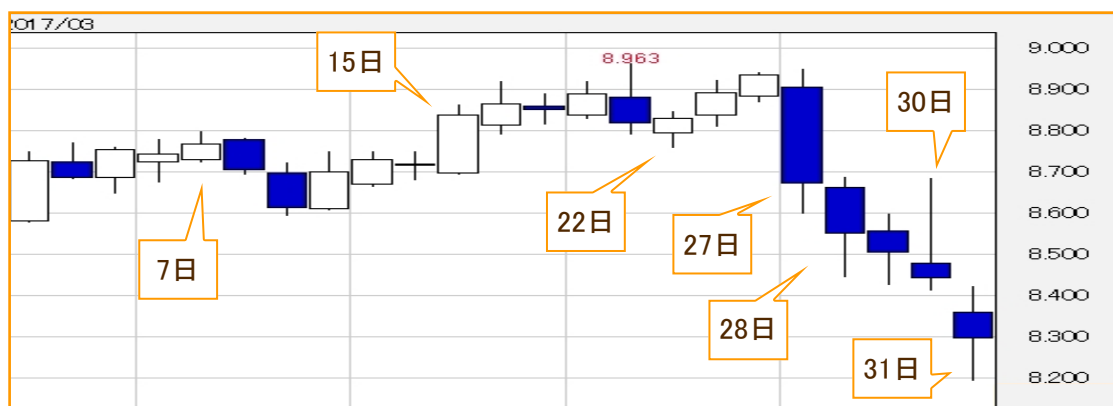
(予想レンジ: 73.800~79.700円)

ZAR/JPY

ランド/円 3月の推移

3月のランド/円相場は8.195～8.963円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約3.4%の下落(ランド安・円高)となった。

主要国の株高を背景としたリスク・オンの流れの中、上旬は堅調に推移するも、9円の大台を前に足踏みした。こうした中、27日のゴードン財務相に対する帰国命令をきっかけに同相の更迭観測が浮上すると、南アフリカの格下げ観測を絡めてランド売りが活発化。31日に2016年12月以来の安値となる8.195円まで一段安となった。



四本値

OPEN	8.582
HIGH	8.963
LOW	8.195
CLOSE	8.298

7日	南ア10-12月期国内総生産(GDP)は前期比年率-0.3%と予想(±0.0%)を下回った。16年通期でも前年比+0.3%と15年(+1.5%)から大幅に減速した事が明らかとなり、ランド/円は一時下落した。
15日	南ア1月小売売上高は前年比-2.3%と予想(+1.1%)外の減少となった。ただ、米連邦公開市場委員会(FOMC)声明を受けて米利上げペース加速観測が後退した事から米国株が上昇する中、ランド/円は上昇した。
22日	南ア2月消費者物価指数は事前予想通り前年比+6.3%と、前月(6.6%)から伸びが鈍化した。また、南ア10-12月期経常収支はGDP比1.7%の赤字(予想:3.5%の赤字)と、2011年1-3月期以来の水準に赤字が縮小した。
27日	南アのズマ大統領が、英国に出張中のゴードン財務相に帰国命令を出した。緊縮財政を推進する同相の更迭観測浮上りが嫌気され、ランド売りが強まった。
28日	「南アのズマ大統領がゴードン財務相の解任を計画」との一部報道が重石となり、ランド/円は8.447円まで下落した。
30日	「ズマ南ア大統領による内閣改造はゴードン財務相を含む9大臣に及ぶ可能性」との一部報道を受け、ランド売りが強まった。なお、SARBは政策金利の据え置き(7.00%)を決定。声明でインフレ見通しは17年が5.9%、18年は5.4%と、前回1月(6.2%、5.5%)より引き下げた。インフレ見通しは2017年第2四半期に中銀目標レンジに回帰する見込みとの見方を示した。またGDP見通しは17年が1.2%、18年は1.7%と、前回1月(1.1%、1.6%)より引き上げた。その際、クガニャゴ総裁が会見で「CPI見通しはランドの上昇により改善」「将来のランド下落のリスクがCPI見通しに影を落とす」「6人のメンバーの1人が0.25%利下げを支持」「引き締めサイクルの終了に達している可能性」などの見方を明らかにした。
31日	ズマ大統領が内閣改造を発表し、ズマ財務相を更迭。新財務相にギガバ内相が指名された。これを受け、格付け会社ムーディーズは、現在「Baa2」の同国の格付けを引き下げ方向で見直すを発表した。

日経平均

OPEN	19226.94
HIGH	19668.01
LOW	18909.26
CLOSE	18909.26

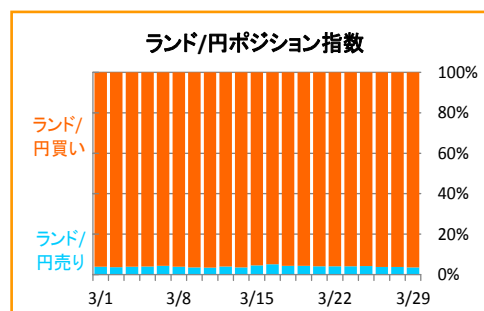
NYダウ平均

OPEN	20957.29
HIGH	21169.11
LOW	20412.80
CLOSE	20663.22

N Y 金

OPEN	1248.50
HIGH	1264.20
LOW	1194.50
CLOSE	1251.20

3月のポジション動向



4月の南アフリカの注目材料

- ・2月南ア小売売上高(12日)
- ・3月南ア消費者物価指数(19日)
- ・3月南ア生産者物価指数(26日)
- ・3月南ア貿易収支(28日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

4月の見通し

ゴードン氏の後任として新財務相に指名されたギガバ氏について、国際金融市場では無名であり、実力が未知数である事から、(S&Pが格下げ理由として指摘した)同国の財政不安が早期に緩和される公算は小さい。また、格付け会社ムーディーズは、当初4月7日に予定していた格付け見直し発表を延期している。4月3日に格付け会社S&Pが投機的等級への格下げを実施したのに続き、当面の間は他格付け会社による投機的等級への格下げへの懸念がランド相場の重石となるだろう。

ランド/円はゴードン財務相の帰国命令後に6営業日連続で陰線を付けるも、今月3日に200日移動平均線で下げ渋ると共に、下ヒゲの長い足形が出現。目的的に大きく売られた反動で戻す余地があると見るが、同国の政局混乱が収束するには時間が掛かる事が予想されるため、その動きは一時的となろう。仮に値を戻したとしても、本稿執筆時点で日足の一目均衡表の転換線や基準線が位置する8.40円台では強い抵抗が予想される。(川畑)

(予想レンジ: 7.600~8.500円)